

令和7年度 近畿部会第176回例会

■テーマ ワークショップ

「最大限の利用可能性」に至る複数の道

—アーキビストは模索する—

■と き 令和7年(2025)7月25日(金曜日)
14時00分～17時00分 (13:30開場)

■場 所 立命館大学朱雀キャンパス 中川会館209教室

住所：京都市中京区西ノ京朱雀町1

■JR・地下鉄京都駅から

JRにて約10分、「二条駅」下車、徒歩約2分

京都市営烏丸線にて約5分、「烏丸御池駅」で京都市営東西線に乗り換え、「二条駅」下車、徒歩2分

■阪急「大宮駅」より、徒歩10分

以下のウェブサイトを参照のこと。

<https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/suzaku/>

■報告者

報告者1	堀内	暢行	氏 (国文学研究資料館)
報告者2	阿久津	美紀	氏 (立命館大学衣笠総合研究機構)
報告者3	橋本	陽	氏 (京都大学大学文書館)
司会者	平野	泉	氏 (立教大学共生社会研究センター)

■定員 30名 (申込フォームにて先着順、対面のみ)

■参加費 個人会員・機関会員の方 参加費 無料

※ 参加には、**事前のお申し込みが必要**です (お申し込み方法は次ページ参照)。

■共催：

・令和7年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医療品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)「薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築・活用に関する実践的研究」(25KC2015)

・科学研究費補助金研究活動基盤研究(B)「社会的養育における当事者主体の記録管理システム導入に向けた基礎研究」(25K00783)

・国際共同研究加速基金(海外連携研究)「アーカイブズ評価自動化のためのAIツールの概念実証」(24KK0006)

■内容

多くのアーカイブズ機関では、最大限の利用提供と人権保護とを両立させるため、機関の公開基準に基づき記録公開の是非を判断し、必要に応じてマスキングや袋掛けなどの作業を行っている。個人識別情報を自動抽出して匿名化する企業向け AI ツールの開発も進んでいるようだが、日本のアーカイブズ機関のニーズに合った水準のものが出現するのはまだ先のことだろう。なにより、AI ツールの利用について先進的な研究を海外のアーカイブズ学研究者においてすら、いまだその精度の向上や利用の条件について検討の最中にあり、せいぜい人間の判断の補助ツールとして活用される可能性が見込まれる段階に留まっている。

このように、デジタル技術の発展が喧伝されるなか、公開の可否や範囲を決定する過程を人間であるアーキビストの判断に多くを委ねざるを得ない現状において、本会を、記録群に含まれる非公開情報にどう対応していくかについて改めて考える場としたい。主題は、プライバシー権と著作権人格権に別れる。特にプライバシー権の方は、人間による判断の蓄積が後々の AI ツールの開発にも影響するという視点に立てば、将来の実務の発展のためにも継続して議論する価値のある主題であるといえよう。

■お申し込み方法

必ず以下の参加フォームよりお申し込みください。
<https://ws.formzu.net/dist/S263148689/>

■お申し込み締切

令和7年（2025年）7月18日（金曜日）まで
（先着順ですので、予定より早く締め切ることがあります）

■当日スケジュール

13:30 開場

14:00 開会のあいさつ

14:10 報告

堀内暢行 「『個人のライフステージ』論の有効性の検証」

阿久津美紀 「要配慮個人情報を含む記録の閲覧：海外でのアーカイブズにおける閲覧経験とイギリス国立公文書館のマスキング方針」

橋本陽 「著作権法変えてくれ：公表権から見た個人記録の公開問題」

15:50 休憩

16:00 質疑応答、討論

16:50 閉会のあいさつ

17:00 閉場

*懇親会は開催しません

■お問い合わせ先

全史料協近畿部会事務局 : 京都府立京都学歴彩館

MAIL: rekisaikan@pref.kyoto.lg.jp 住所: 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-29

TEL: 075-723-4836 FAX: 075-791-9466